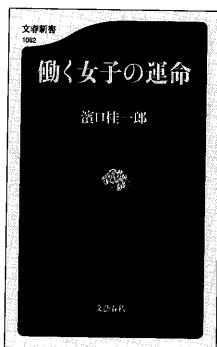


人事労務の「今」が見える実務Q&A誌

労務事情

2.1
2016

Bookshelf 



濱口桂一郎 著
文藝春秋
2015年12月発行
新書判/256頁
780円+税

働く女子の運命

主な内容 日本の女性はなぜ「活躍」できないのか? / 会社にとって女子とは? / 女房子供を養う賃金 / 日本型男女平等のねじれ / 均等世代から育休世代へ / 終章 日本型雇用と女子の運命

社会進出における男女格差を示す世界経済フォーラムの2015年版「ジェンダーギャップ指数」では、日本は145カ国中101位であり、前年より順位を3つ上げたとはいえ、依然として低い数字のままである。安倍政権において、女性活躍の推進を看板に掲げているにもかかわらず、なぜ日本の女性はこんなにも活躍していないのか。その原因は、欧米社会と異なる日本独特の雇用システムにあると著者は述べる。

欧米社会は、各職務を遂行するスキルのある労働者をはめ込む「ジョブ型社会」であるのに対して、

日本では、社員を入社させ、定年退職までの長期間にわたり、企業が求めるさまざまな仕事を、時には無理をしながらもこなしてくれる人材が求められる。このような「メンバーシップ型社会」のなかで、結婚や育児の「リスク」を抱える女性労働者は、基幹業務などから遠ざけられてしまう。

本書は、女性の労働史や日本型雇用に関する歴史を追いつつ、日本型雇用がいかに女性の活躍を阻んでいるのかを分析したものであり、女性労働をはじめ、日本型雇用について理解が深まる一書である。